▲ともに初優勝の廣岡選手(左)と濱﨑選手

文部科学大臣杯 第46回全日本中学ボウリング選手権

7月25～27日／キョーイチボウル宇治

男子 廣岡光希 女子 濱﨑姫琉選手 ともに最終学年で初優勝

第46回全日本中学ボウリング選手権大会が、7月25日から3日間、京都府宇治市のキョーイチボウル宇治で行われ、男子134、女子84選手が参加して熱戦を展開したが、男子は廣岡光希選手(埼玉・川越市立寺尾中)、女子は濱﨑姫琉選手(神奈川・横浜市立原中)が、それぞれ最終学年を初優勝で飾った。

男女それぞれ予選9G(3×3G)、決勝3Gの12Gトータルピンで争われた。

男子では、廣岡選手が2回戦を704、3回戦でも710と伸ばして、予選をトータル2075で1位通過。1G目にパーフェクトをマークした須田風海音選手(群馬・伊勢崎市立殖蓮中)が79ピン差の2位につけ、3位以下はさらに100ピン近い差がついていた。

上位20人が進んだ決勝でも、ふたりの優勝争いとなった。1G目192の廣岡選手に対し、須田選手が4フレからの6連発などで258を打って、一気に13ピン差まで迫ってきた。しかし2G目に「思い切ってラインを変えた」廣岡選手が221を打って立て直すと、逆に須田選手は2つのスプリットなどで184に終わり、その差は50ピンと開いた。廣岡選手は最終Gも211とまとめ、トータル2699で優勝を飾った。須田選手は53ピン差の2位だった。予選12位の本田陽士選手(熊本市立武蔵中)が決勝で711を打って、2548で3位に食い込んだ。

▲「今までこれといって成績を残せていなかったので、優勝できてうれしい」と廣岡選手

◀小4時の全小以来の優勝の濱﨑選手「予選の男子が投げたあとのレーンのラインどりは難しかったけど、今日は外から投げられた」

▲「決勝の1G目でいけると思ったけど…」と、レーン移動した2Gはスコアを伸ばせず2位の須田選手

▲予選の12位から、決勝の追い上げで3位に食い込んだ本田選手

女子は、濱﨑選手が3回戦に653を打って、トータル1763のトップで決勝に進んだが、2位の石井こころ選手(埼玉・ふじみ野市立大井中)が2ピン差の2位と、接戦になっていた。

上位14人が進んだ決勝は、石井選手が「レーンの変化に対処し切れなかった」と伸ばせず後退するなか、濱﨑選手は1G目212、2G目193と手堅くまとめていた。その濱﨑選手を激しく追い上げてきたのは、4位で決勝進出の江原芽生選手(埼玉・川口市立上青木中)。1G目225、2G目247を打って、92ピンあった差を25ピンまで詰めた。しかし最終Gは1フレからオープンが続く大苦戦。138の不本意なスコアに終わり、3位にとどまった。最終Gをきっちり206とまとめた濱﨑選手が、トータル2347で優勝を飾った。姉はナショナルチームに在籍するりりあ選手。その姉は、2、3年時に準優勝で、ついに手が届かなかった中学選手権のタイトルを、妹が見事手中にした。

濱﨑選手と同じ神奈川の網代羅夢選手(神奈川・大和市立大和中)が、決勝で1位の632を打って、2271で2位に入った。

▲予選1回戦を443と出遅れたのが響いたが、尻上がりに調子を上げて2位に食い込んだ網代選手

▲優勝の可能性を残した最終G、138と崩れて悔しい3位の江原選手

International Bowl Expo 2022

次のトレンドはストリング・ピンセッター？

▲キュービカAMFのブースでも、実際にストリング・ピンセッターのマシンを設置してデモンストレーションが行われていた

◀今年のBowl Expoはラスベガスのコンベンションセンターで開催された

International Bowl Expo 2022が、6月26日から30日まで、ネバダ州ラスベガスのコンベンションセンターで開催された。3年ぶりに訪れたという㈱冨士商事(フジ取手ボウル)の野田博社長に、現地の様子を伺った。

「コロナの影響で、一昨年、昨年は来場者も少なかったようですが、今年はコロナ前の2019年並みに復活したと言っていました。マスクをしている人もほとんど見かけませんでした」

期間中は多くのセミナーが開催されていたそうだが、一方企業の展示ブースで目を引いたのは、ピンをひもでつるしたストリング・ピンセッターで、キュービカＡＭＦ、ブランズウィック、ＵＳボウリングのアメリカ企業のほか、ドイツのメーカーからの出展もあったそうだ。

「従来のフリーホール式のピンセッターに比べ構造がシンプルなため、導入費用や、導入後のメンテナンスの費用が安い。またメーカーの宣伝文句では、電気代が10分の1という話もありました。日本でも新設や老朽化して入れ替える場合には、これからはこの方式になっていくんじゃないでしょうか。AMFやブランズウィックでも、開発の軸足はすでにこちらに移りつつあるようですよ」

またＢＰＡＡ(アメリカボウリング場協会)がボウリング業界に貢献した個人に贈るワペンスキー賞が、船木寛氏(㈱ファンキー代表取締役)に贈られた。日本人では、故・中野啓二郎元BPAJ会長(1993年)、野田氏(2013年)に続く3人目の受賞だった。

▲ワペンスキー賞を受賞した船木寛氏(中央)